
連歌風三題噺「とある女の子高校生の大事な事ない日常」

弥生 肇

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

連歌風三題噺「とある女の子高校生の大した事ない日常」

【Nコード】

N7724M

【作者名】

弥生 肇

【あらすじ】

とある女の子高校生の独白でお送りする、たぶん大したことない日常。

1話 〳今日のお題：「可愛さ反則」「ラジオ」「情緒」〵（前書き）

三題漸を定期的に書いてみようと思いました。

せつかなので、連載形式ストーリーも兼ねてみようと思いましたが。

とっかかりは、ツイッターで話していた話題などをベースにしてみました。

皆様からお題を募集して、適当に盛り込みつつやっしていきたいと思っております。

毎回、極力関係ない三つのお題で。

よろしければ、何かしらの手段で〵ご連絡ください。使わせていただきます。

1話 く今日のお題：「可愛さ反則」「ラジオ」「情緒」

「とある女の子高校生の大した事ない日常」

今日のお題：「可愛さ反則」「ラジオ」「情緒」

私の名前は天満陽子^{てんまゆうし}、15歳。高校生になって3ヶ月弱かな。梅雨明けは嬉しいけど、ひたすら暑い。今はそんな七月下旬。

私はよく親友の安本千束^{やすもとちづか}に言われるんだ。「ようぴーの『可愛さ反則』、早く爆発しなさい」って。今日も言われた。夏休み前、終業式の帰り。

最近の流行り言葉って面白いよね。「リア充爆発しろ」とか。主に嫉妬と羨望を込めたフレーズだけど、千束の言い方には別の意味も含んでる。「可愛いんだから早くデビューしなさい」ってさ。「デビューって何よ〜」っていつつも言い返して笑い合って、私達のこの会話は終わる。高校生になってから、数回やったコミュニケーション。

え？ 本当に私は可愛いのかよって？

自分で言うのもなんだけど、たぶんそうみたい。小さい頃から色々な人に言われるし……男の子にも、中学の時に三回、高校に入ってから一回。告白された。その時に可愛いと言われたのは、はつきり覚えてる。

中学の時に言われた一人の男の子とは付き合って、それがいわゆる一人目の彼氏って事になるのかな。すっごく子供っぽい人だったから、割とすぐ別れちゃったけど、今はちよっぴり後悔。ごめん、今はどうでもいい話だね。気になるなら、別途どこかで。

そりゃ女の子だし、人並みに気を遣ってる。ファッション雑誌だ
って購読してる。可愛くなりたいし、そう言われるのは嬉しい。

でもそれを自分からアピールするって、何だか抵抗あるんだ。自
慢してるみたい。めいっばいオシャレをするのは、何だか見せびら
すような気になってしまふ。だから、私はいつも控えめ。お化粧品は
軽く、服は落ち着いた色合いで、スカートは短くし過ぎず。

だけどころという話を人になると、またそれはそれで自惚れみたい
になっっちゃう気がするの。だから私はファッションだけじゃなくて、
性格もお喋りも引っ込み思案。

本音で話せるのは千束くらいかな。あの子は私の事をよくわかっ
て友達でいてくれるし、何より千束の方が可愛いし。私は絶対そう
思う。もち肌、艶やかなキューティクル、適度なスタイル。反則っ
てのはあんたのためにあるよ、千束。

デビューしたくないって思う理由がもう一つ。私は割と小さな頃
から、「あなたは『情緒』豊かな子ね」ってよく言われた。

「情緒豊か」と言われ始めた頃は、言葉の意味もよくわからなか
った。だけど誉められてるのはわかって何だか嬉しかった。だから、
勧められるがままに色々な事を行った。文章を書いたり、小さな劇
団で演技を試したり。でも、引っ込み思案な私に、目立つ活動は
無理だった。どうしても全力で取り組めなくて、長続きしなかった。
例えば、千束と知り合ったのも、ちっちゃい頃の劇団だっけ。

でもね。私の感じた事を書き綴った文章や想いを込めた演技が、
少なくとも人に支持してもらえるのは幸福な事。それは間違いない
でしょう？ だから、何か出来ないか考えて、調べて、ちょこちょ
こと出来ることをやってみていたら。こうなっちゃった。あ、どう
なっちゃったか言っただけだった。

巡り巡って、今は作家兼声優をやってるんだ。こっそり。知って
るのは私だけの、アクセスカウンタがぐるぐる回転する『ラジオ』

番組。

今日も、そろそろやろうかな。

あ、ちなみに、生放送ラジオだよ。アドレスは秘密。

続く

1話 く今日のお題：「可愛さ反則」「ラジオ」「情緒」く（後書き）

読んでいただきありがとうございます。

いかなご感想でもありがたく頂戴しますので、何かありましたら、遠慮なくお願いいたします。

2話 〳今日のお題： 「腹筋」「A5用紙」「歯医者」〳(前書き)

今日のお題： 「腹筋」「A5用紙」「歯医者」

2話 く今日のお題：「腹筋」「A5用紙」「歯医者」く

「こんばんは、青空ようこそです。今日も始めました”寝落ちレディオ”！ 発音は「らじお」ではなく「れでいお」ですよー？ ではこれから三十分、よろしくお願いしますね！」

金曜日の夜。今日も始まる私のラジオ。スタジオは六畳の私の部屋で、設備はお気へのノートパソコンとヘッドセットだけ。中学三年の夏から始めたので、もう約一年続けていることになるなあ。びっくり。

ちなみに”青空ようこ”はハンドルネームで、本名は天満陽子。
”青空ようこ”になるこの時間、私はいつもよりちよっとだけ元気になる。

いつもより半オクターブ高い声と早いテンポで、ヘッドセットのマイクに声を吹き込む。

「はい、今日も私のパソコンはご機嫌です。でも一年前の最新機種だから、最近はもっと処理速度早いのはっかりみたいで羨ましいですね。この番組でも今までに、処理落ちとか色々ありましたもんね。……え、なに、寝落ちだろって？ ひどいですねえ、確かまだ七回くらいですよ。その他はパソコンや回線の不具合でした。……三回くらい、ね」

私のラジオでは、放送と合わせてチャットもやってるんだ。ニコニコ動画やUstreamとかで皆さんがやってる形式だね。リスナーの質問やコメントをリアルタイムで見たり取り取りできるから、すごく面白い。もちろんメールでのお便りも受け付けてる。チャットじゃ、まとまった文章は無理だからね。

私自身も喋りつつ、両手はマウスとキーボード。画面右側を流れ

るチャットの文字列を追ったり、たまには私から話題に係るサ
イトのURLを貼ったりするんだ。数々のショートカット操作は必
須。

「では、私のつまらない”なう”の話はこれくらいにして、コーナ
ーに移っていきましようかね。……おお、”なう、ツイッターに毒
されてますね”なんてコメントが来ました。うーん、そんなことな
いですよ？ 私が影響を受けたのは必ずしもツイッターではありません
せん！ 最近はそこら中に”なう”って言葉が使われてますから。
他でもない、私の学校の先生も、おちゃらけた表現する時に使うん
です。英語の先生なんですけど、nowって単語が出てくるたびに
私は笑いを堪えています。絶対あの先生、わざと可笑しい言い方して
ますもん。『なう』って」

声がやたら重低音の先生の姿が浮かぶ。変な先生だけど授業はわ
かりやすい。そろそろ四十歳で、ちょっと渋くて素敵。四歳のお子
さんの話になると、授業が脱線してチャイムが鳴るまで止まらない。

「って、『腹筋鍛えられるんですね』ってコメントが……。腹筋
？ ああ、笑いを堪えるからですね。うーん、腹筋。腹筋かあ。え、
『腹筋割れてますか？』とか何ですか！ あはは、私は十五歳の普
通の女の子ですよ。割れてるわけないです。はい、ダメです見せま
せんよ。えっちはダメです」

いつつも番組の最初はこんな感じ。というかずっとこんな感じか
な。雑談みたい。でも、私にとって必要以上にちやほやされちゃう
リアルの日常よりも、素でいられるのは本当。

ちなみに台本とかは基本的に書いてない。私にとっては、リラッ
クスしながらお喋りする時間に近いから。お喋りするために台本は

書かないでしょ？

話したいトピック専用のノートに箇条書きしたりはしてるけどね。『A5用紙』、じゃなかった、A5サイズのルーズリーフとバインダーで、ネタ帳を作ってる。

「では、コーナー行きますよ。毎週恒例の”ようこの週末”！これは、私の週末の予定をお話して、それについて語り合おうというものです。何かしら問題や悩みを私から提示します。今週は、『歯医者』です」

次々にやってくるコメントを読む。私がネタ振りをする、次にどう話が展開するのか、リスナーの皆さんが想像を膨らませて言葉を投げってくる。それを読むのが楽しい。そして斜め上に裏切るのが、快感。

「はい皆さん、歯医者さん自体は、私は割と平気なんです。ちょっと痛いし歯をガリガリされるのも好きじゃないけど、我慢はできるかなって程度。だけど、中学から通ってるところは、ちょっと先生に問題があるのです」

この話はラジオでは言えないけど。親友の千束のお母さんが歯科医。女医さんだね。私達が中学生になったときに開業して個人歯科になって、それからはお世話になってる。向こうとしても、お客さんが多い方がいいし。

「女医さんなんだけどね。実は……、って、皆さん反応早すぎ！女医さんにハアハアしてる人はみんな退場してください！もう。男の人ってみんなこうなのかなあ……なんてね。そりゃ偏見だっけ知ってますけど。私は女の子なんですから、控えめにしてくださいね？」

手元のペットボトルを取って、ちよつと一口喉の休憩。今日はポカリスエット。

「はい、ようこたんハアハアとか流れ出したので、ガン無視で話進めますよ！ その女医さんなんですけど、実は男の人がすつごく好きで。いや、度が過ぎた男好きじゃないですよ？ 普通の人で、結婚もしてるみたい。でも、イケメンが診てもらいに来ると無性に盛り上がるらしくて！」

やつとチャットから、ハアハアの文字が消え始める。ふう。

「その女医さんは治療中、痛さが紛れるようになって意味もあって、いろんな雑談をしてくれます。こっちは歯を削られたり固定されたりしてるからなかなか会話は出来ないけど、そのお話がすつごく面白い。特に、かっこいい男の人が自分の治療で痛がってるのを見るのが凄く興奮するとかなんとか、だからちよつと意地悪してみたりとか…… っつうわあ！！ 女医さんハアハアやめてっつえばもう！！ 一気に増えたし！盛り返したし！」

しまった。話題的にこうなるか……。

「もう…… そんなに痛がりたい人は、虫歯になって女医さんのいる歯医者探してください！ で、私の悩みはというと、あんまり話がおかしくて笑っちゃって、口がガクガクしちゃうから、落ち着いて治療を受けられないんです。…… なに、腹筋鍛えろっつて、またその話ですか？ ああ、笑いを腹筋で殺せとおっしゃいますか。なるほど。確かにその通りでして、いつも治療が終わった後は、口以外の全身がぐつたりと疲れてるんです。笑いを必死に全身で殺してたからだったんですね。今更合点が行きました」

ハアハアから、腹筋チャットになってる。チャットってどんどん流れるから、条件反射的にコメント入力する人が多いのよねえ。みんなもって考えて、ゆっくり書くべきだよ。でも、これが楽しいのかな。うん、私は、実は楽しい。

「というわけで、英語の授業のためにも、歯医者さんいくためにも、腹筋を割らなきゃいけないってことでしょうか。無事に割れたら写真アップも、考えましようかね。はい、割れる訳ないから言ってみよう。期待しても何もありませんよ？ では次は皆さんからのお便りのコーナーで……」

.....

うん、今日は寝落ちしなかった。

たまに物凄く疲れてたり、思うように番組を盛り上げられないことがある。申し訳ないことだけど、今までに寝落ち七回。うち二回は、つらいコメントでいっぱい非難されちゃって、泣きたくなくてウソ寝落ちしたんだけどね。割と最初の頃。

その頃はラジオにも番組名がついてなくて、「ようこの部屋（仮）」とかしてたっけ。でも、誰かが「ようこさんもリスナーもゆるゆる楽しめる、『寝落ちラジオ』とかどうですか？」って提案してくれて、採用させてもらったんだ。ちよつと捻りたくてレディオにしたんだけど、今考えると中学生だったね私……これで捻ったつもりなんだから。

そう。私は毎週末、こつやってゆるゆるした時間を楽しんでる。すつごく贅沢で大切な、誰にも知られてない秘密。あ、誰にも言いつつもただ一人……

「姉ちゃん、そろそろラジオ終わった？ もう風呂、みんな入ったぞー」

「ん、もちよっとして行くよー」

「ういー」

弟の勇太だけは、ラジオのことを知ってるんだけどね。

三つ違いの中学一年生、天満勇太。姉バカだけど、かわいい弟なんだ。

続く

2話 〳今日のお題： 「腹筋」「A5用紙」「歯医者」〵（後書き）

読んでくださりありがとうございます！

3話 く今日のお題：「iphone」「ウーロン茶」「流れ星」(前書き)

今日のお題：「iphone」「ウーロン茶」「流れ星」

3話 〈今日のお題：「iPhone」「ウーロン茶」「流れ星」〉

……あれ？ もう、朝かあ。いつの間にか寝ちゃってみたい。
ベッドの手元には、こないだガラケーから機種変更したXperia。充電してないから電池減ってるや。横目に移るノートパソコンは、ラジオを終えた後にスリープモードにしてそのまま、ゆったりとランプが点滅。

うつうつう……。はあ、ベッドで大きく伸び。パジャマが汗っばいや。あ、と言っても、私はパジャマパジャマしたのは特に着ないんだ。ノースリーブのTシャツと、ボーターのショートパンツが気に入り。ちなみに冬はぶかぶかのトレーナーみたいなもの。

ていうか暑い。あつつい。おかしいと思ったら、時計の針が2本とも12付近を指してるよ。つまりお昼か……。お母さん、朝ごはん片付けちゃったかなあ。むしろそろそろお昼だね。お腹空いた。

とりあえずむっくり起きる。まだもうちょっと眠いんだけど、今日はそうもいかないなあ。デートの予定があるのだよ。

何も無いお休みの日なら、結構な頻度で二度寝なんだけどね。私は朝に弱くて、夜更かしも苦手。言い換えると、寝るのが好き。眠りに落ちる直前と、目が覚めた頃あのボーっとした感覚。あの半覚醒の状態が何とも好き。

え？ 寝てばかりなのはわかったしどうでもいいから、早く話を進める？ デートについて詳しく？

もー、せっかちさん。女の子はデートって言葉を、割と簡単に使うんだよ。知らない？ 今日は千束とデートなの。……むしろ千束以外とあんまりデートしないけどね。あ、何か落ち込んできた。ちなみに千束は、いわゆるちゃんとしたデートをする相手もちゃんとしている。別に羨ましくなんかないけどね。

と、Xperiaが着信音を鳴らす。このYUIの曲が流れるのは千束だけ。あの子、YUI好きなんだよね。

「おはよー千束」

「何が『おはよー』よ、もうお昼よ。やっぱ寝てた？」

「うっん、起きてた起きてた、今起きたよ」

「……いつも通りね。待ち合わせは一時だから、早く頭まわして、遅れないようにね！」

「今日観る映画、一時十五分からだっけ？ぎりぎりだよ」

「本当は午前中の回で観たかったくらいなのを、陽子に合わせたんだから！つべこべ言わずに着なさいよ！」

「はい。しばしお待ち」

「はいよ。外暑いわよー」

「おー」

通話終了。

さーて。デートの時は朝シャワー、朝シャンプー。私も一応女の子。友達と遊ぶ時だって、地味に気をつけるのです。今日はもう昼シャワーだけ。

洋服箆笥を開けて、今日の服を適当に選んでおく。お気に入りのタータンチェックミニスカートと、前回デートの時に買ったプリントがちよっと派手なTシャツ。バッグはやめてサイドポーチかな。うーん、でも夏はもう一段刺激的なコーディネートの方がいいかな、もう高校生だし……

と、また携帯が鳴る。今度はメール着信音。開いて表示される安本千束の名前と、『iPhone』だとわかるメールアドレス。千束はパソコンもApple。

「ゆっくり服選んでるのもいいけど、時計ちゃんと見なさいよ。もう十五分の回の手ケット取ったからねー」

念視でもされてるのかな。そして確かに、もう十二時二十分。急ごうっと。

さくつとシャワーを浴びる。夏用のスーつとするシャンプーが気持ちいい。こないだ髪型をショートにしたのはやっぱり正解だよ。乾かすのすごく楽なんだもん。

リビングに行くとお母さんもごろごろソファで寝ていた。私の親だしね。

「朝食のおかずは冷蔵庫にあるわよ。後は適当によろしくー」

「はい」

お味噌汁をコンロで軽く温めて、サラダ類が盛り付けられたお皿を冷蔵庫から出して、ご飯をよそう。

土曜日の朝は、九割方がこんな感じな天満家です。ちなみにお父さんは、土曜は朝からゴルフ。まだ始めたばかりで、猛特訓中なんだった。いまだに打ちっぱなしらしいけど。いつ「かつこ悪い」って言おうかな。

あ、弟の勇太は部活。テニス部なんだ。小学校からやってて実は割と強い。そしてモテる。まだ中一なのに。お姉ちゃんは何か心配。テレビでは、夏の流星群特集をやっている。へえ、今年は十三日頃に『流れ星』見られるの？ お願い事考えておこうか。誰だろうね、流れ星に願い事を三回唱えると叶うとかロマンチックな事を考えたのは。

朝兼昼ごはんを流し込むように食べて、出発準備完了。お母さんはいつの間にか寝息を立ててるね。

玄関で静かに一言、「いつてきまーす」。

うわっ、ほんとに外、あつっ！自販機で『ウーロン茶』のペットボトルでも買っていいのかな。バッグを持たずに出てきたのをいきなり後悔。

でも、楽しい一日を思えば、些細な事だよな。れつつらー！

続く

3話 く今日のお題：「iPhone」「ウーロン茶」「流星」「後書き

読んでいただきありがとうございます！

4話　く今日のお題：「カレー」「電子書籍」「帽子」「前書き」

「カレー」「電子書籍」「帽子」

今回は、やっと少しだけ物語が動き出す感じにしてみました。
いつも読んでくださってる方、ありがとうございます！

4話 く今日のお題：「カレー」「電子書籍」「帽子」く

「あつついわねー。屋外を冷やす発明を誰かしないの？」

「だから人類は屋内に住んでるんだと思うよ、千束」
「なるほど」

女の子デート中の私と千束。襟を引つ張ってパタパタやりながら、妄言をのたまう千束。綺麗な形の胸元がちらちら見えて、私の方が何だか恥ずかしい。きつと男の人はもつと困る。さつきから、すれ違う人が千束を見てないようだがつつり見ている。私？ 知らないもん。

午後一時に待ち合わせて映画を観た。”真夏に燃え上がるラブストーリー”とか銘打たれていただけあって、非常に熱かった。いやむしろ暑苦しかった。バリバリ体育会系の男のひとの恋つて、確かに部活の応援とかドラマはありそうだけど、今ひとつ惹かれない。私はたぶん、もうちょっと落ち着いた恋がしたいんだろうな。千束はストライクな映画だったらしいけど。さすが体育会系、通じ合うものがあるのね。ちなみに千束は新体操部キャプテン。彼氏はサッカー部副キャプテン。いろいろ反則だね。何が？ ふん、知らない。

「ねえ陽子、お茶もだけど、小腹空かない？ 何か食べようよ」

「んー、私は朝ごはん兼昼ごはんを慌てて半分食べてきただけだから、その提案は賛成。何を希望？」

「うんとねー」

歩きつつ、唇に人差し指をあてて考える千束。ちょうどいい広さのおでこの下、眉間にしわが寄る。長考に入ったらしいから、私も考えてみる。そうだ、確か、あのチェーン店で美味しそうなフェアやってたな。

思いついたので言おうとした所を、千束に遮られる。

「そうだ、坦々麺が食べたい！」

「……なんで？ 熱いじゃん。辛いじゃん」

「今はそういう気分なの！」

映画の影響かしら。でも、さっき暑いのを思いっきり嫌がる発言してたような気がするけど。

「でも残念ながら、私は『カレー』が食べたかったりするなあ」

「あれ、陽子にしては珍しく希望を言うのね。聞き役メインなのに」「そうだったけ？」

「そうよお。ていうか、坦々麺もカレーも、カテゴリー近いと思うんだけど。熱いし辛いし」

「あはは、そだね。でも、夏フェアで、野菜満点カレーってのやってたの思い出したんだ」

「ほう」

「しかも、いつも150円のサラダが、サービスでつくんだって！」

「……どこまでベジタリアンなのよ、陽子は」

「あ、言われてみれば。今気づいた。私、野菜好きだね」

「知らなかったの!？」

「うん」

「はー。新ネタね」

「そのネタ、どこで使うの？」

「予定は未定」

じゃ、私のラジオで今度使おうっと。実は私はベジタリアンでしたー!……また、変な子扱いされそうだなあ。まあいいや。最近ネタ不足だし。

「じゃあ千束、カレーでオッケー？」

「問題なし。どこ？」

「あっち」

目的のチェーン店はすぐ近くにあった。おやつどきの時間だから、カレー屋はもちろん空いていた。

四人がけのテーブル席に案内される。私の後ろのテーブルの男の

人が、室内なのに『帽子』を被ってるのがちよつと気になった。大学生くらいかな。あれはベレー帽？ 室内だけど、妙に似合ってる気がした。座る時に見えたんだけど、最近売り出された薄っぺらい端末で何かを読んでいるようだった。たぶん『電子書籍』ってやつだね。割と読みやすそう。でも、私のお小遣いでは高い買い物だなあ。

「ほら陽子、メニュー。何にする？ って、野菜満点カレーだっけ」

「あ、ごめんごめん。えと、そう。千束も？」

「んー、野菜ばかりよりも、肉も食いたいわね」

「女の子が、肉食いたい、ね」

「何よ、お肉美味しいじゃない」

「そう。せめて”お肉食べたい”にしとこ、こういう時の発言は。

千束のファンが聞いたら、ひっくり返るよ？」

「ファンとか、知らないわよ。大体言ってるじゃない、私よりも陽

子の方が素はいいんだって」

「それこそ知らない」

「はいはい」

一通りの会話を終え、しばしの沈黙。

と、ふと背中になんかの感触。気になって振り向くと、後ろの例の男の人が私の方を見てて、至近距離で目が合った。思ったより、歳が近い気がした。嫌いな顔じゃなかった。

「今の声……」

「ん、はい？」

何か言われたけど、よく聞こえなかった。

「あつ、いえ！ 失礼しました」

「……はあ、どうも」

その人は、何だか急に慌てて私に謝って、そしてそそくさと前に向き直った。さっきまでカレー食べながら読んでた電子書籍はほつたらかして、忙しくスプーンを動かしながらカレーをかきこみ始めちゃった。

それから千束と、映画の話をあーだこーだやって、とりとめのない話をした。

カレー屋さんを出てからは、腹ごなしも兼ねてショッピング。夏物の売れ残りを片っ端から物色。基本的に見るだけ、試着するだけでも、一着だけすごく安くてかわいかったから、買った。すっきりしたデザインの薄手のブラウス。

家に帰ってから、ラジオのネタ帳にベジタリアン話をメモメモ。そしてパソコンを起動。ラジオ投稿受信用のアドレスには、今日も十通ほどの新着メール。フォルダを開くと、一時間くらい前のが最新メールだった。時々メールをくれる、常連さん。でも、内容は、……いつもの感想や投稿ではなかった。

『青空ようこそさん

いつも楽しくラジオを聴かせてもらってます。今日は失礼ながら、お伺いしたいことがあります。メールします。

今日……野菜満点カレーを食べてましたか？もし間違ってたらごめんなさい。

でも、僕の後ろの人が、あまりにもようこそさんに声がそっくりで、しかも連れの方に”ようこ”と呼ばれていたのです。

もしご本人だったら、失礼な態度を取ってしまったってごめんなさい。でも、やはり気になったもので。それでは』

何だか、心臓が飛び出すくらいときどきしちゃった。どうすればいいのだろうか？ どう返事すればいいのだろうか？

今まで弟しか知らなかったパーソナリティの正体。明かしてしまつていいのだろうか。

でも、この人に伝える事は、何だか悪いことにはならない気がする。だって、私のラジオに”寝落ちラジオ”というタイトルのアイ

ディアを出してくれた人だから。今もあの時も、同じハンドルネーム、”ふるふえっさー”。あのベレー帽と電子書籍と、妙にマジメそうな顔を思い出すと、くすつと笑いがこぼれちゃった。変なの。

私は、深夜までかかって、書いては消してを繰り返してから、この人に返事を出した。青空ようこだと明かす返事を。

続く

4話 く今日のお題：「カレー」「電子書籍」「帽子」「後書き」

よろしくお願いいたします。

5話： ～今日のお題： 「ライメン」「前髪ピン」「激情」～（前書き）

お題： 「カレー」「電子書籍」「帽子」

今回は、アレが始まる時の、じれったい感じが出てればな、と。
いつも読んでくださってる方、ありがとうございます！

5話： ～今日のお題： 「ラーメン」「前髪ピン」「激情」～

「姉ちゃん、起きろー。夏休みだからって寝過ぎ！」
「……………うう？」

ベッドの端をぼふぼふ叩かれる振動で、私は目を覚ました。弟の勇太が見下ろしている。相変わらず、中一なのに小四くらいにしか見えない童顔。

う、何だか寒い。そっか、クーラー入れっ放しで寝ちゃったんだ。いつも寝る前には消すんだけど、昨夜は何してたんだっけ……

「昨日はラジオじゃない日なのに、姉ちゃん何やってたの？ 遅くまで部屋の電気ついてたけど。パソコン？」

私のパソコンを見遣り、電源ボタンを押そうとする勇太。私の愛機は寝落ちの日のお約束、スリープモードのようで、オレンジ色のランプが緩やかに点滅している。

そっだ、パソコン。昨夜は……………！

「べ、別に何やってたっていいでしょ！ ほら、着替えるから男の子は出てなさい！」

「お、何か急に機嫌悪くなるし。そっか、姉ちゃん、エッチなゲームとかしてたんだ？」

「女の子がするわけないから！ それより勇太、どこでそんなもの事覚えたのよ。……………まさか興味あるとか言わないよね？」

「最近友達にそういう話するヤツがいるからさー。詳細はノーコメント」

「そ、そうなの。あ、そう」

勇太の情操教育も大事だけど、今はそれどころじゃない。たぶん私、メーカー閉じないでそのままベッドに転がって寝た気がする。だから、今パソコンをつけられると。まずい。見られたらまずい画面が最初に登場する。

「じゃあ、パソコンで何してたの？」

何で今日に限ってそんなに食い下がるのよ、勇太！

「ちよ、ちよっとネットサーフィンやってたら止まらなくなっちゃただけだから！」

「ふーん。……ていうか姉ちゃん、顔赤くない？」

「し、知らないわよ！ そうよ、クーラー入れっ放しだったから夏カゼ引いたの！」

「そうなんだ。そりやお大事に。……それにしても気になるなあ。今日の姉ちゃんのパソコン」

私の見え見えのウソが効くわけもなく。

「あーもう、そうよ！ちよっとエッチなサイトを見たりしてただけ！勇太にはまだ早いからダメー！！」

言ってて苦しい。いや、悲しい。

「俺にはまだ早いつて、どんなにヤバイサイトなんだよ。大体姉ちゃんと三つしか変わらないし、姉ちゃんこそ女の子だろ？大体さつき自分で……」

「そうなの！もう色んな意味で勇太には見られたくないから言ってるの！そしてほら、そのお姉ちゃんが着替えるんだから、出なさい！」

「仕方ないなあ。ほいほーい」

「最近かわいくなってきたわね、勇太」

「反抗期、思春期……何かそういうのかもね。ごめん、やり過ぎてたら謝るよ、姉ちゃん」

うっ、地味にやっぱりかわいいよ勇太。

「じゃ。あ、言い忘れてた。父さんも母さんもどつか言っちゃって今あるごはん、カップ『ラーメン』だけだから。ちなみに今は昼過ぎ」

「それは切ないね……」

ひらひらと手を振ってから出ていく勇太。最近、身長も私と同じくらいになっただね。

さてと。

パソコンの電源をつける。予想通り、最初に表示されるのは、私
が”ぷろふえっさー”にメールを送った直後の画面だった。もしこ
の文面を勇太に読まれていたら、恥ずかしさで本当に熱が出ていた
と思う。

でもそのためにあんなウソをついてやり過ぎざるを得なかった
のは、正直がっかり自己嫌悪。勇太はどう思ったのだろうか？ あ
の子、実は頭いいから、たぶんウソだとわかって引いたんじゃない
かな。ああー、何か当たらずとも遠からずな領域まで、推測されて
る気がして怖い。

でも、ラブレターとか、全然そんなじゃないのになあ。

「いつもありがとうございます」って。そんな感じの事を書いた
だけなのに。

でも、ラジオのファンレターへの返事を書くのとは、何だか全然
違った。今思い出しても、ときどきする。何なんだろう、この気持
ち。

何となく、昨日メールを書く時に、検索してはブラウザのお気に
入りに放り込んでいたサイトのアドレスを、適当にクリックする。
恋愛物の自作小説を集めたサイトに行き当たる。『激情』なんて陳
腐なタイトルの小説へのリンクが目に入る。激情って何？

とりあえず一旦気持ちをリセットして、今日を始めよう。

最後にもう一回メールの送受信を実行して、何も”ぷろふえっ
さー”から送られてきてないのを確認してから。いっぱい開いてた
ブラウザもメーカーも閉じて、パソコンをシャットダウンする。

よし、着替えるか。

この時やっと、昨夜メールを書く前につけた『前髪ピン』がつけ
っぱなしなのに気づいた。

続
く

5話：く今日のお題：「ラーメン」「前髪ピン」「激情」く（後書き）

ありがとうございますー！

6話： ～今日のお題： 「ピロートーク」「バッテリー」「誕生日」～（前書き

お題： 「ピロートーク」「バッテリー」「誕生日」

久々にラジオシーンあります。

6話：　今日の話題：　「ピロートーク」「バッテラ」「誕生日」

先日の、私にとってちよつとした事件から数日。

そう、ちよつとした事件。私のラジオ”寝落ちレディオ”のリピーター”ぷろふえっさー”さんに、どうやらカレー屋さんで会つて、しかも私がパーソナリティの”青空ようこ”だとバレちゃった事。

ラジオをやつてる事は今まで、弟の勇太以外誰にも話したことがなかった。だから、顔を思い浮かべられる人からラジオの話がされることなんてもちろんなくて、私自信、何だかバーチャルなものだと思つてた。ラジオのリスナーさん、もらうお便り、番組中のチャット……どれも、実は今まで実感がなかった。

でも、ぷろふえっさーさんの顔を偶然カレー屋さんで見、そしてその後メールをもらつて。いつものお便りと同じで、優しい文面。あの顔の、背格好の、あの人が私に今までメールを書いてたんだなつて思つた。

急にリアルを意識したんだ。

考えたら、誰が私のラジオを聴いてるかわからない。学校のクラスメイトが実は聴いてるかも知れないし、先生とか、劇団にいた頃の知り合いとか、私の知つてる人が聴いてる可能性が、いくらでもある。

急に怖くなつた。私はどう見られてるのか気になつてきた。でも、誰にも訊けない。勇太に訊いても仕方ない。

唯一頼れそうなのは”ぷろふえっさー”さんで……でも、ストリートに「私のラジオはどうですか？」つて訊くのは何だかできなかった。

その代わりに、私が本当に”青空ようこ”である事を明かし、ちよつとだけいつもありがとうございますつていう気持ちを書いて、

メールを出した。

数日経った今、まだお返事はもらってない。そりゃ、更に返事を求めるようなないようじゃないし。別に、普通だと思っけど。

でも、ずっと返事を待ってる私がいる。何でもいいから、またリアクションが欲しい。

そして、何もなのまま、今夜はラジオの日。夏休みもあと僅かの8月最後の金曜日。

いつも原稿なんてほとんど準備しないのに、今日は何だか上手く話せる気がなくて、いろいろと書きだしてみた。

”ぷろふえっさー”さんと会った事を、何度も書いては消して、結局はつきり書けなかった。ラジオを締めくくる部分に、ちょこっとだけ気持ちを入れただけだった。

結局、「実は私はベジタリアンでした」ネタを、延々と薄く長く引き伸ばした感じ。これは……つまらないね、たぶん。

あとはアドリブかあ。

うーん、久し振りにラジオやる前に気構えてるね、私。でも、決して嫌じゃないんだけどな。

「陽子おー。昼飯だぞー！ 『バッテラ』食うかー？」

突然に私の思考を断ち切るお父さんの声。もう、色々考えてたのに。

ていうかお父さんいたんだっけ。そっか、一ヶ月の海外出張から、昨夜帰ってきたんだっか。帰ってからもずっと寝てたみたいで会ってないから忘れてたよ。そう言ったら泣いちゃうだろうな。

あ、お父さんのことは、好きだよ？ ちゃんと。

「うん、今一階に行くよー！ ところで、バッテラってなにー？」

お父さんへのちょこつとサービスのつもりで、とりあえず大声で返事。

「来ればわかるぞ、うまいぞー！ 今日俺の『誕生日』だから、頼んだんだ」

あれ、誕生日！？ そっか、そう言えば……。ごめんお父さん、いろいろあって忘れてたよ。誕生日合わせて出張から帰るとか言ってたっけね。歳に似合わずラブラブな両親。妬けるね。なにが。

近所の高級寿司屋から取り寄せたお寿司やらをいただき、お腹は大満足。

バッテリーは鱒の押寿司だった。でも、なんでバッテリーっていうの？ 今度グーグルで調べるかな。あつ、ラジオでリスナーさんに訊いてみれば、それで一つネタになるね。そのうち。

「はい、それでは今週のコーナー「ようこの週末」は、これくらいで終わりにしましょうかね。皆さん、夏休み最後の週末の使い方、色々教えていただきありがとうございます！ 高校生の私にいきなり今から旅行とかは大変だけど、出来るだけ外に出て、友達と会って、何かをしたいですね」

夜、私の「寝落ちレディオは終盤」。予想外にベジタリアンネタが盛り上がった。リスナーさんたちに助けられたね。もっとお肉を食べなさいとか言われたけど。その方が出るとこ出ますよなど。そうなの？ ていうか何であんまり出てないってわかるんだろ……。流れるチャットを見ていると、おなじみの単語がいくつか返ってくる。

「え？ なに、宿題？ 抜かりはないですよー、ちゃんと友達と分担して写し合ったりして、完了してます！ 私が七割くらいやった気がする不満は、ここだけ漏らしておきますね。こんちくしょー！」

千束、覚えてなさい。

「じゃあ最後に、たまに突然やる『ようこの『ピロートーク』のコーナーで、今週は締めたいと思いますね！ 知らないリスナーさんに説明しておくよと、ラジオの最後にどきどきする話をして皆さんを眠れなくしたり、退屈きわまりない話をして寝落ちさせちゃうコーナーになります」

喋りつつ、用意していた原稿を取り出す。今の説明に従うなら、今日のはたぶん、皆さんにとっては退屈な方。でも、私にとっては「今日はお恥ずかしながら、私の書いた詩など、ちょっと読んでみようかな、と。詩というほど大した物ではないですけどね。あ、既にちょっと恥ずかしい……。そういえば私が改まって書いた文章を読むとか、ラジオでもあまりやってなかったですね。ええ、そうなんですよ。信じられないかもですけど、ほとんどアドリブですよ。さて……」

原稿を眺める。私の、ちょっと丸い感じの手書きの文字が並んでいる。

たっぷり間を置いてから、私は読み始めた。

夏へさようなら。秋へようこそ。

今年の夏もお馴染みの同じ顔でやってきて、いつもと同じように暑苦しくて、

でも、秋が訪れる時になって気づいたんだ。

本当はいつもと違う夏だったんだって。

たぶん、きつと、毎年違う夏だったんだ。

私はいつも、過ぎてから何かに気づく。

でも今年はずうんだ。これからは違うんだ。

そういう私に気づくことが出来たから。

だから今は、ありがとを込めて、夏へさようなら。
そして大切な何かを逃さないために、秋へようこそ。

「……えー、以上です。ものつつすごく恥ずかしいですね！ 今すぐ回線を切りたくらいですが……うう。えと、読んでいる間、皆さんのチャットがほとんど流れないのを見て、あーたぶん聴いてくれているんだろうなーって、思っていました。ご静聴ありがとうございました！ えっと、ほんと恥ずかしいんで、忘れてくださいね？ 覚えてちゃダメですよ？ めっ、ですよ？ そ、それじゃあ、駆け足で、おやすみなさい！ 寝落ちレディオ、青空ようこでした！」

顔から火が出そうで、エンディングに使っているBGMが終わるのを待つのが、すぐくもどかかった。

詩を読んだだけでも恥ずかしかったのに。

読み終わったあと、チャットに出てくるメッセージにいつもの人を見つけちゃったから。それだけで、心拍数がぐっと上がった。

ぷるふえっさー さんの発言： 素敵な詩でした！おやすみなさい！

何で今までメールくれなかったの。今日もチャットに全然出てこなかったし！

でも、何だかやっとなんとした。今日はよく眠れそう。

続く

6話： ～今日のお題： 「ピロートーク」「バッテリー」「誕生日」～（後書き

いつも読んでいただき、ありがとうございます！

7話： ～今日のお題～ 「巨乳」「ウケレレ」「しいたけ」～（前書き）

新学期です。

7話： ～今日のお題： 「巨乳」「ウクレレ」「しいたけ」～

今日から新学期。私の高校一年生の夏が終わってしまったよ。まだものすごく暑いんだけどね。今年は太陽さん、頑張り過ぎ。もつと休んだ方がいいよ？

「今日もつぶやき絶好調ね、陽子。熱いけど、大丈夫？」

「うん、大丈夫。あんまり熱いから、語り風に今の心境を表現してみただけだから」

ラジオのオープニング風に、だけど。週1ですつとやってきた”寝落ちレディオ”も、なんだかすっかり私の生活の一部になってきた。先日のぷろふえっさーさんへのバレ事件じゃないけど、うっかり会話の中でポロリしないように、気をつけないといけないなあ。

「ふーん、なら、まあいいけど。相変わらずデビューなし、今年も男日照りなご様子だったから、私は心配で心配で……」

「もう、デビューってんならバツサリ髪切ったじゃない」

「それはやらなくていいデビューだって力説したわよ！ あんなに綺麗な黒髪を……」

「んー、そんなもん？」

「そんなものよー!!」

「まあ、クリスマス頃にはまたある程度伸びてるんじゃないかなあ」「これだから、先天的にキューティクルを持つ女は余裕過ぎて困るわ」

「髪質なら、千束こそすごく綺麗じゃない。いつもさらさら。彼氏も撫でたくなる、この触り心地」

「ちょ、ちょっ、高志のバカの事は置いてよ！ そうじゃなくて、えと、私は毎日それこそ血の滲む努力を続けているから、かるうじてこうなのよ。陽子とは違うわ」

「そうなのねえ」

「そうなのよお」

まだ人数の少ない教室にて。私の前の席に千束が逆向きに座って向かい合う形になっての雑談中。

千束は新学期早々、新体操部の朝練の後らしい。ほのかにシャンブーの香りがしてる。横に座ってる読書してる鈴山くん、どきどきしてるかもね。ちなみに鈴山君は、図書委員で文芸部。私とは中学も同じだったから、一応よく知ってる仲かな。中学からずっと『しいたけ』カットなのが、誰にも言っていないけど私の中でスマッシュヒット。ダサいを通り越してかわいい。彼は朝の教室で本を読むのが好きなんだって。

一方。遅起きで、この時間の教室に普段はいない私だけど、今日は何となく早起きしちゃった。新学期頑張るぞーとかそういうのじゃない。むしろ昨日は夜更かしだったのに。でも、その夜更かしの内容が原因なのかなあ。だって……

「ちよつと陽子。何にやにやしてるの？」

「ほえっ!？」

「ほえっ、じゃないわよー。相変わらず眠たそうだけど、今朝は何だかいつもと違うわよ。いつもの憂鬱そうな感じが減って、代わりに怪しげな笑みが混じってる感じ」

「なあにそれ。普通だよ」

「いや。私のセンサーが言うんだから間違いないね。こないだ私とデートした時にはなかった気配があるわね」

この口調、このモードに入る千束を時々見るなあ。即ち、あの話に突入する時。嫌な予感。

「……そ、その心は？」

「ズバリ、陽子に男の気配あり、ね」

「ぶっ!」

ズバリじゃないわよ。にしても、やっぱり来たか……。でも、そんなんじゃないのになあ。あ、ところで、今鈴山君がびくつとなつた気がしたんだけど、目の錯覚かなあ。彼、本読んでる間全然姿勢

変わらないから、疲れただけよね、きつと。

「ほーら黙った。否定しないし。あたりね、あたりね！」

表情を輝かせながら乗り出してくる千束。ずいずいと前に出てきて、『巨乳』一步手前の非常に形のいい胸を強調するかのよう。あ、ブラ見えた。水色。

「もー、どうしてそうなるわけ？」

「カンよ、カン！」

千束のこの類のカンは、実は九割方当たる。今までの実績が物語る。他の女の子のこイバナの発生を、千束はいち早く見抜くんだ。いつも聞き役の私はおかげで退屈しないんだけどね。今回は、まずい。

「そう。残念ね、はーずね。そういう話があるわけじゃないじゃん」

「でも、陽子のにやにやの説明がつかないんだけど？」

「そ、そんなににやにやしてたかなあ」

「してた。何でもいいから私を納得させて引き下がらせたら許してあげる」

「うっ……しよ、しょうがないなあ。『ウクレレ』よ」

「ウ、ウクレレエ？」

驚き顔で仰け反る千束。そりやそうだ。私も脳内フル回転でストリーを構築する。そう、ラジオのフリートークのように。

「そうよ、ネットで色々やってて、手軽だって知って、急に始めたくなったのよ！ほら、ギターとかより簡単だって言うし。私、割と無趣味だからさ、ちょっとこの機会にやってみようかなーって」

「……………ふーん」

なあに、その私の顔の後ろを透視するような目は。

「わかった。今日は許してあげる」

「え、あれ？ 意外にあっさり引き下がるのね」

「ツッコミどころ多すぎてどうしようかと思ったけど、どこか抜けた陽子なら、そういう事もあるかなって」

「私をどういう目で見てるのよ……………」

「で、もう始めたの？ 注文したとことか？」

「へ？ 何を？」

「ウクレレに決まってるじゃない」

「！ え、えとね、まだ買ってないの。面白そうだなーって、昨日ネットで調べてただけ。それを思い出しただけで」

「ほほー。何だか、急に誰かにモテようとし始める男の子の思考回路みたいに見えるから、もう買ったのかなって。違うんだ」

「わ、私は女の子だよ」

「あはは、もちろん知ってるけど。だからツツコミどころ満載で、ね。まあ、今日は許してあげる」

そう言っただけでニヤリと笑う千束。もしかして私、コイバナハンターの千束にロックオンされたかな……。

言えない。言えないよう。ぷろふえっさーのメールを思い出してにやにやしてたなんて事。

それにしても、ひどい言われようだよ？ ぷろふえっさー。ウクレレ始めた男の人って、そういう風に見えるんだってさ。

楽器かあ。あ、音ならラジオで流せるね。うーむ。ちょっと考えてみようか！

続く

7話： ～今日のお題～ 「巨乳」「ウケレ」「しいたけ」～（後書き）

読んでいただきありがとうございます！

8話： ～今日のお題～ 「k i t a c a」「月」「学園祭」～（前書き）

よろしくお願いいたします。

8話： ～今日のお題： 「kitaca」月「学園祭」～

「さて、今日も始まります、青空ようこの「寝落ちレディオ」！夏休みが明けて数日が経ちました。ラジオをお聴きの皆さん、今日はいかがお過ごしですか？ 今日にはほとんど事前準備なしなので、フリートーク満載、アドリブ全開でお送りの予定です！ だって昼間、ちょっと忙しかったんだもん。ん？ 何で忙しかったって？ せつかちは黙って、ラジオを聴きましょう！ たぶん、お話ししますので」

というわけで、今週も私のラジオスタート。ストーリーミングサイトのカウンタを見ると、今日も百人くらいリスナーさんがいてくれるみたいで、嬉しいな。

それにしても、今日は何を話そう。昼間やってた事以外、本当にネタがないや。まあ、困った時はお便りフォルダを開いて、と……。

「はいはい、『やっと夏休みが明けてようこたんと会えるよ』とかチャットが流れてますね。季節感は出てますけど、私は夏休みも休まずにラジオをやっていたはずです！ え？ ああ、部活の合宿で聴けなかったんですね、それは残念。何の部活なんですかねえ…… おおレス早い…… って、ボディーボール&ウエイトリフティング部！？ 何だか今私は、物凄くマッチョなお兄さんがキーボードを叩いている姿を想像してしまいました。キーボード壊れないですか？ え、鋼鉄製のを使ってるんですか！」

どのお便りの話をしようかと物色しつつチャットの相手をしてみたり。聖徳太子みたいに十人は無理だけど、このくらいやってのける陽子さんなのです。

「あらあら、何か夏休みのお話がどんどん流れてきますね。あ、北海道へ避暑で旅行してましたなんて人もいるようですね。皆さん怒りの顔文字を流してます。そうですね！北海道、いいですよね。私は関東から修学旅行以外で出た事がないです。修学旅行も京都・奈良でした。北海道！いいですよねえ。あ、二回言った。とりあえず、私も行ってみたいです。東京から*Suica*使って乗り継いで行ったりなんて出来ませんよねえ。え？そもそも北海道では*Suica*じゃなくて『*Kitaca*』？はあ、そんなのもあるのですか。また無知っぷりがばれちゃいました……む、北海道でも*Suica*を使えるというレスがありました。*Suica*は使えるけど*PASSMO*は使えない……ほお。「豆知識」

何だか今日は、チャットに答えるトークだけで保つ気がしてきた。もちよつと続けてみよう。お便りはキープキープ。

「そう言えば夏休み、どこも遠出してないなあ。行ったのは、友人と映画を観にいたりしたくらいです。あ、母の趣味で、家族で温泉に一泊二日行きましたけどね。ちなみに父はずつと出張でいなかつたので、行ってません！笑っちゃかわいそうですね。なに、かわいそうなのはようこさん？俺が旅行に連れて行ってあげるお！？あはは、彼氏いないんですかって……いるわけないじゃないですか！いたら、たぶんこんなラジオなんてやってないんじゃないですかねえ。ちよつとごめんなさい、飲み物で一息」

ねぎらつてくれる言葉がチャットに流れる。ぶつ、「ストーリーになりたい」とか危険なコメントも混じってるよう。残念ながらストーリーは使っていないけどね。

何と時計を見てみれば、もう十五分くらい経ってる。最近、ラジオの三十分があつと言う間に感じる。特に、今日のような形式でやるのは初めて。ふむ、閃いた。

「さて、カムバックです。うん、おかえりありがとう！ さて、今日は特にコーナーをやらずに皆さんのチャットのお相手をしてたらもう半分時間が過ぎてしまいました！ なので、突然ですけど、今日からこれも一つのコーナーにしちゃおうと思います。お、ぱちぱちぱちと拍手が……。ええ、コーナーというか、皆さんとのんびりお喋りする、みたいな感じなんですけどね。というわけで、そのコーナー名を募集です！来週発表しますので、どしどし応募してください！ え？ この場で決めないのかって？ 一応、皆さんから意見をもらいつつ、じっくり考えて決めようと思ってるからです。案外色々考える派なんですよ、私。なんですか？ そうは見えない？ ……ひどいです。しゅん」

またちよつと一息。秋めいたデザインで季節限定と銘打たれた、お茶のペットボトル。いつもの味と何か違うのかな。ふう。

「さて、そろそろ前振りしていたお話に入りましょうか。ええ、忘れてないですよ。そうですね、昼間何してたかって話です。はい、突然ですがクイズです。季節は秋です。秋と言えば皆さん、何を連想しますか？ お、食欲。まずそれですか。私は割と小食ですけど、ご飯が美味しい季節ですよ。ふむふむ、紅葉ですか。いいですよ。ね。お、芸術に読書。近い答えが出てきました。ん、お『月』見ですか！ 風流ですねえ。お団子片手に、満月を見上げる、と」

ちらりと横を見遣ると、昼間に私が格闘していたノートがある。手にとって、読み上げるでもないのにパラパラとページをめくる。

「はい、時間切れです！直撃の答えは『学園祭』でした！ あるいは、何か、クラスの出し物で劇をやることになりました。しかも誰がハードルを上げたか知りませんが、オリジナルでやることになっ

ちゃって。しかも困ったことに、私がストーリー／脚本担当の一人になっちゃったんですよ。推薦された数人の中で、更にジャンケンで負けちゃったんですけどね。そうです、ヒドス！、ですよ！」

実はお話創りとか、嫌いじゃないんだけどね。昔は劇をやった事もあるし、こういうラジオもやってるし、自分で言うのもなんだけど、素養はある方だと思う。でも、クラスではそういうことは見せてないと思っただけで、何で推薦されたんだろう。

「そういう訳で、昼間は四苦八苦しながらお話を考えていたのです。クラスみんなの顔も思い浮かべて、配役とか考えながら。ドラマト案が出来ただけなんだけど、面白くなりそうではっきりとしてます。ついさっきまでやってたので、ラジオはノープラン状態でした！え、脚本をアップしろって？ ダメですよー。そもそも恥ずかしい！」

お、もうすぐ終わりの時間。ほんとうにこのコーナー成り立つね。

「というわけで、そろそろ今日のラジオも終わりの時間です。あれ、まだ私の脚本見せろって話が続いてます。え？ 先週読み上げた詩を考えれば、お話を作れるのも頷ける？ 内容が楽しみになってきた？ もう一回読んでくれって？ ……もう、先週の詩の話は忘れてください！！ 実はあんなの読んだの、今ではすっごく反省してて、直近ですけど既に私の黒歴史認定完了なんです！ はい、もう一回言いますよ、忘れてください！」

ほんと、あの詩を書いて読んだ時の私はどうかしてた。今では、チャットの中にぶろふえっさーのコメントが混じっても、あの時ほどドキドキしなくなっただけだね。安定期？ 今日何回か名前が見えたなあ。

「それでは、今日はひたすらチャット相手にフリートークの青空よ
うごでしたー皆さん、お休みなさいー！」

続く

8話： ～今日のお題～ 「k i t a c a」「月」「学園祭」「～(後書き)

ありがとうございました！

9話 〱 今日のお題： 「脳味噌」「幸福」「後夜祭」 〱 (前書き)

間が開いてしまい、済みません。9話です。

9話 く今日のお題： 「脳味噌」「幸福」「後夜祭」く

秋も深まる今日この頃、日曜日。私の高校は学園祭。

既に午後三時過ぎ。開催は一日だけだから、それぞれの出し物は大方が終わりを迎えて、体育館の方からは軽音楽部か何かの演奏が聞こえる。そろそろグラウンドファイナーレで、オケ部がスタンバってるところかな。

人も一番多い時間帯。生徒と教職員だけのこの空間に、今日は他校の生徒や親子連れが訪れていて大賑わい。いつもと同じ廊下がすごく狭く感じる。外部の人が外履きの靴のまま校舎内をうろろしてるのが、何だか新鮮。でも上履きを履いたり、そもそも靴を脱いで建物に入るといふ習慣は、意外と一般的じゃないみたいなんだよね。海外では、大体靴のまま家にあがるし。

「陽子、つぶやきが漏れてるわよ？ 上履きがどうしたの？」

「うう？ …… ああ、ごめん千束。なんか、疲れちゃってたみたい」
うう、ぼーっとしてたよ。何で昔観た洋画のワンシーンなんかを思い出しながら歩いてるのよ、私は。せっかくの、年に一回の学園祭なのに。隣を歩いているのは、相変わらず千束だけだね。

「あはは、お疲れみたいね。でもすごく良かったわよ、陽子の『通りすぎる少女』！」

「『通りすぎる少女』、ね……」

私たちは、ちょうどクラスの出し物を終えて、一斉に自由時間に入ったところ。何をやったかって？ 演劇。それもストーリーと脚本がオリジナル。素人の高校生にはちょっと高いハードルだったなあ。しかも私がメインの脚本担当になっちゃうし。

脚本第一稿は一ヶ月前に出来上がったんだけどね。実際に演技をして練習していくうちにみんな本気になってきて、喧々諤々の議論も数回。そのたび、脚本も修正の繰り返し。最終版が出来上がったのは結局一週間前。自分のラジオとかと違って、たくさんの人が演

じる事になるお芝居の脚本って、やっぱり大変。でも面白い。

ちなみに劇のタイトルは「後福」。もちろん誤字ではなくて、『幸福』というものは大抵、何かの後に続いてやってくるものなのですよ、って話を書いた事からついた題。どうでもいい話だけど、主人公を演じるクラス男子が「高福くん」という名前で、内部的にはそのもじりもあるんだけどね。

やっと脚本が終わって一週間前で私の任務は完了したかというところではなくて、お話の都合でどうしても一人配役『通りすぎる少女』を増やす必要が出てきて、なぜか私に白羽の矢が立った。台詞も一言だけ、出番も一分足らず。密かに演劇経験者の私には造作もないことだったはずんだけど……それが逆によくなかった。

この前の月曜日、練習で初めて『通りすぎる少女』をやってみたら、やたらと男子衆からはかわいいだのツンデレだの………どうということ？ 女の子達からも、ミステリアスで素敵だのもっと役どころ増やせだの……。うう。

「『通りすぎる少女』のあのつれない雰囲気と儂さ、一言だけ発せられるかわいい陽子ばいす！」

「もう、意味わからないから！」

親友の千束まで、ニコニコ顔でご覧の有様。中学から一緒の千束は、私が小学生の頃に演劇をやっていた事は知らないし、個人的に嬉々として語れる過去じゃないから、特に話してもいない。

「でも陽子。真剣に言うけど……あなたの演技、時間はちよびとだったけど、素人っぽさがなかった」

「そ、そう？」

この子は『脳味噌』まで新体操バカをやっついていそうで、実はそうでもない。鋭い洞察力があるし、何より頭がいい。いつか何かでバレルかと思っただけど、直球の機会だったからなあ。

「今日は、おとぼけは許さないわよ？ そろそろ、あなたの秘密のボールを一枚くらい脱ぎなさい」

「言い方がえつちだよー」

「話をちやかそうとしても無駄よ？ Hな話をこそ望むなら、後で別途じつくりと……」

「ごめん、それは本当に苦手だから……」

「じゃあ、質問に答えて。私は、何でもかんでも言いふらすつもりはないから。単純に、陽子のすごい一面を見て、もっと知りたいなつて思っただけだから」

からつとした笑顔の千束。こういう性格だから、この子と親友を続けていられるんだろうなつて思う。

「……そっか」

「今言えないなら、またの機会でもいいけどね」

「んー。……大体当たりつてだけ言つとく」

「ほう。そうか」

「そうなのよ」

少しだけ間を置いてから、千束の返事。特に声色に変化なし。納得を深めただけのような響き。私はいつものように、おうむ返しに千束の台詞を返す。そんな私の口調に、千束は前を向いたまま静かに笑みを浮かべる。

「了解。じゃあこの話はまた、どっちかの家が、外でお茶でもしながら聞きましょう」

「別に面白い話は出てこないよ？」

「陽子がそう言う時は、大体面白い話が出てくるのよ」

「そうだった……」

いろいろと覆い隠してたつもりだけど、文字通り、私の秘密のペールは千束に一枚ずつ剥がされているような気がする。長い歳月をかけて。そして、ペールは薄くて下の形が透けて見えるから、中にある物はいつまでも隠しきれない。

現在進行形のラジオの事をこの子に明かす日が、いつか来るのかな。

「じゃあ私も疲れたし、そろそろ学祭ふけっちゃんおうかな」

「千束は客引きだけだったじゃない。そんなに疲れたの？」

「そりゃあもう！ クラスの美男美女を揃えた配役に、問い合わせや来客が殺到するわするわで。あと、隠れ人気の脇役さんにもね」
そう言ってウインクを投げてくる千束。ここは掘り下げないでおこうか。

「ふーん。必須参加じゃないけど、『後夜祭』はどうするの？ 彼氏は放置？」

「本当の事を言つと、新体操部で打ち上げがあるから。そっち行くうと思つてて」

「じゃあ、やっぱり彼氏は放置じゃん」

「そういう日もありなん」

「さよか」

高志くんだけか、千束の彼氏。苦勞してそうだなあ。

祭りもたけなわとなり、叩き売りに入った屋台で適当に焼きそばを食して千束とお別れ。

いよいよ後夜祭が始まる。

何となくこんな時間までいたけど、帰ろうかどうかどうしようか。

そんなことを考えていたら。

「……青空ようこそさん？」

眼前に、カレー屋さんで会った人が立っていた。あの時と同じ帽子。
子。

ぶ、ぶるぶえっさー！？

9話 く今日のお題： 「脳味噌」「幸福」「後夜祭」く（後書き）

お読みいただきありがとうございます。

ちなみに、10話で連載は完結予定。

あとは、どこかで長編にまとめなおそうと思っています。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7724m/>

連歌風三題噺「とある女の子高校生の大事な事ない日常」

2010年12月14日02時45分発行